

計画概要

平成29年7月
城陽市

1. 路線名

○高速自動車国道の路線名：近畿自動車道 名古屋神戸線(新名神高速道路)

2. 連結位置及び連結予定施設

きょうとふじょうようし との

○連結位置：京都府城陽市富野

○連結予定施設：市道 城陽スマートインター線(仮称)



※ スマートICの名称は仮称であり、正式な名称は、地元や利用者のご意見等も踏まえて決定。
(以降、スマートICの名称は全て仮称)

3. 連結を必要とする理由

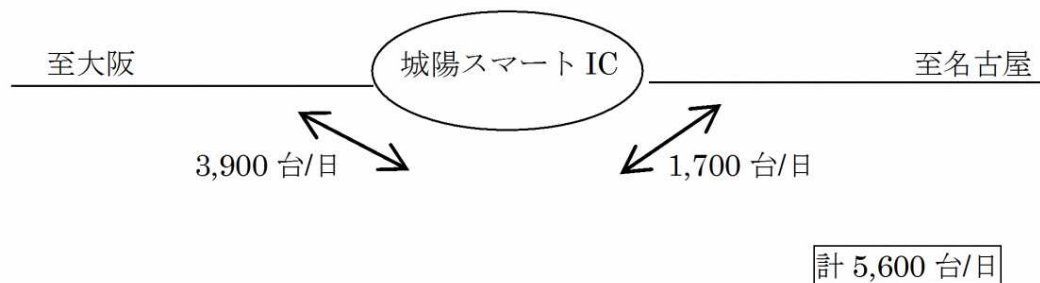
- ① 高速道路利用者の利便性向上
 - ・・・周辺一般道の混雑緩和、所要時間短縮
- ② 救急搬送時の定時性の確保
 - ・・・第三次救急医療施設への搬送時間短縮および定時性の確保
- ③ 地域創生（企業立地促進）
 - ・・・東部丘陵地等への企業立地促進に寄与
- ④ 観光振興
 - ・・・城陽市域の観光施設への所要時間短縮
- ⑤ 防災機能の向上
 - ・・・災害時の迅速な救援・復旧等の対応に寄与

4. 計画交通量、供用予定時期

○計画交通量:5,600台/日(平成42年)

○供用予定時期:平成35年度

(新名神高速道路(大津～城陽)の整備に合わせてスマートICを整備)



- ・推計年次:平成42年
- ・対象車両:ETCを搭載した全車
- ・運用時間:24時間

5. 連結のために必要な工事に要する費用の概算額

○城陽スマートIC全体事業費の概算額:29.8億円

6. 管理・運用形態

○運用形態：フルインター【名古屋方面（上り線）出入口、大阪方面（下り線）出入口】

○利用可能車種：ETC車載器を搭載した全車種
（軽自動車、普通車、中型車、大型車、特大車）

○運用時間帯：24時間

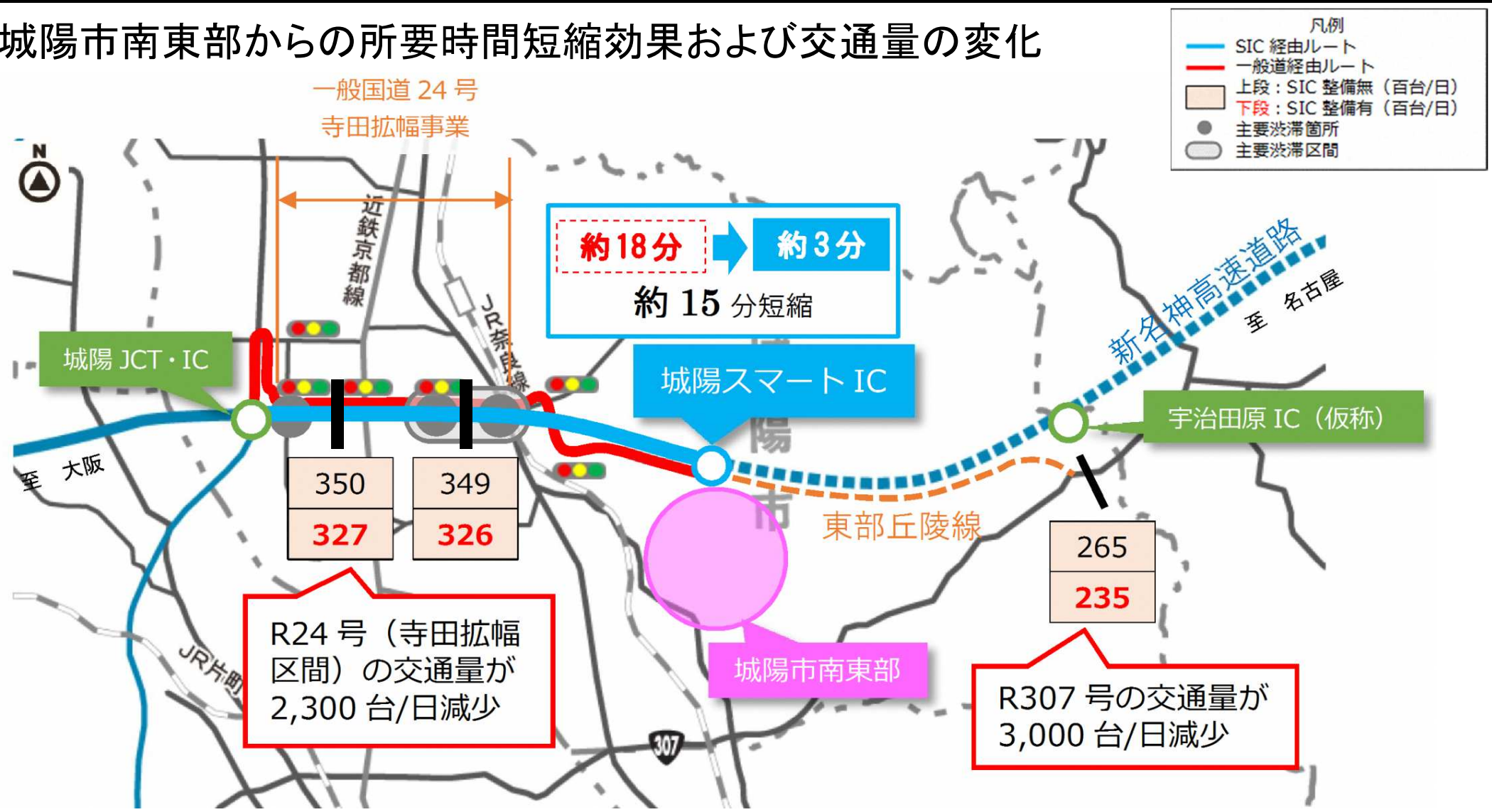
○ETC監視員の配置体制：供用後当面の間、監視員を1名配置し監視・対応
それ以降においては、関係機関と協議調整し、安全性を十分確保した上で、隣接したIC等からの遠隔監視・対応とする。

7. スマートICの設置により期待される整備効果(1/5)

① 高速道路利用者の利便性向上

- 城陽市南東部にアクセスする広域からの高速道路利用者が、**一般道を経由することなくアクセス可能。**
- 一般国道24号寺田拡幅事業と相まって、周辺の一般道の**混雑緩和・所要時間の短縮**が図られる。

■ 城陽市南東部からの所要時間短縮効果および交通量の変化

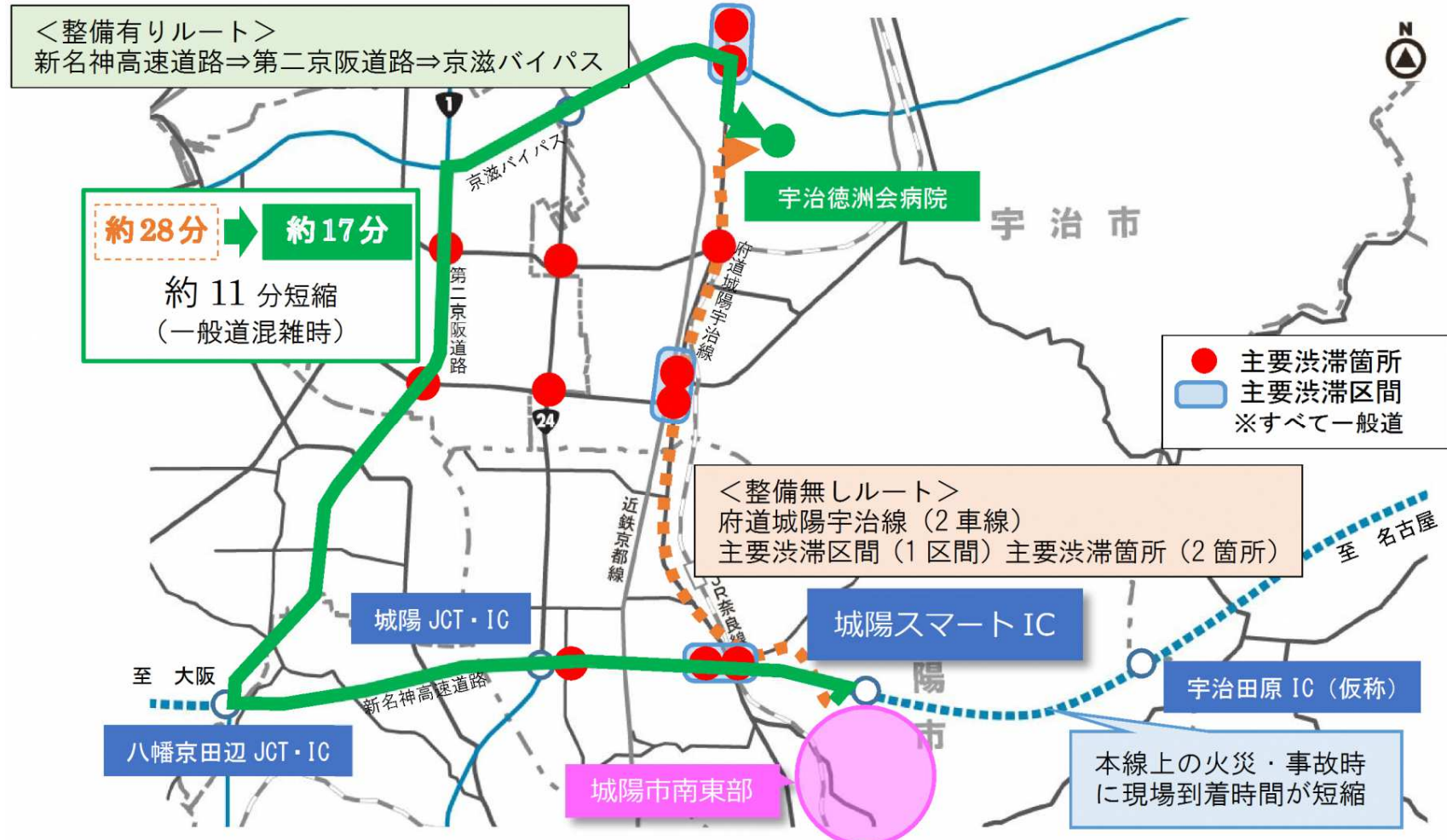


7. スマートICの設置により期待される整備効果(2/5)

② 救急搬送時の定時性の確保

- 城陽市南東部から第三次救急医療施設(宇治徳洲会病院)までの搬送時間が約11分短縮するとともに定時性が確保され、**一分一秒を争う救命活動への貢献**に期待。
- 交差点進入時のブレーキ操作等が解消され、安定した走行により**緊急車内での適切な救命処置**が可能。
- 新名神高速道路本線での火災、救急、救助等の出動について、現場到着時間の短縮が図られる。

■ 高速ネットワークを活用した緊急搬送ルート

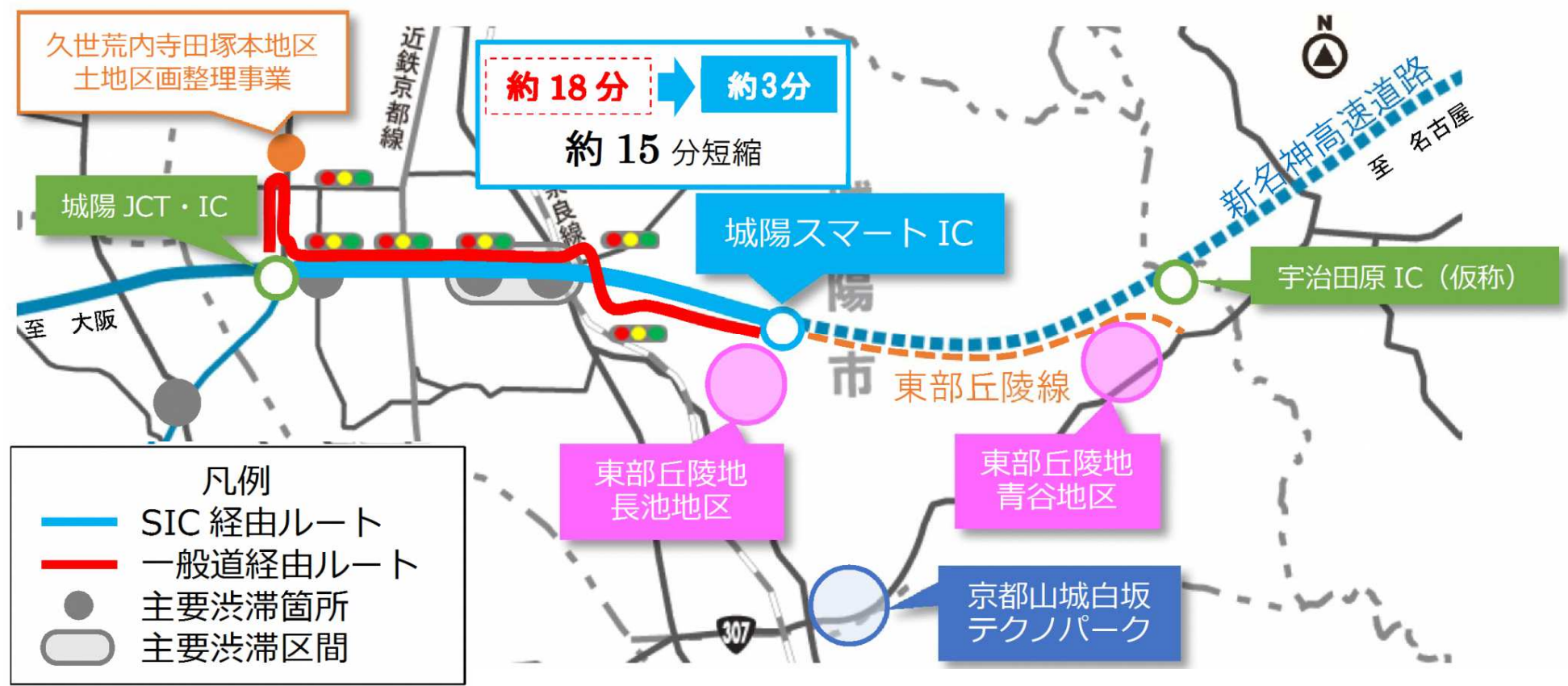


7. スマートICの設置により期待される整備効果(3/5)

③ 地域創生(企業立地促進)

- 各企業の交通の**アクセス性が向上**(大阪方面へ15分短縮)。
- 東部丘陵地長池地区への立地を誘導している大規模商業施設では、スマートICが直近に整備されることで所要時間の短縮が図られ、より**広域な商圈を形成**することが可能。
- 「中継配送拠点」、「域内配送拠点」の導入を進めている東部丘陵地青谷地区や、造成・企業誘致が進められている京都山城白坂テクノパークに立地する製造業等の交通アクセスが向上し、**企業の立地促進**を期待。

■ 東部丘陵地長池地区からの所要時間短縮効果

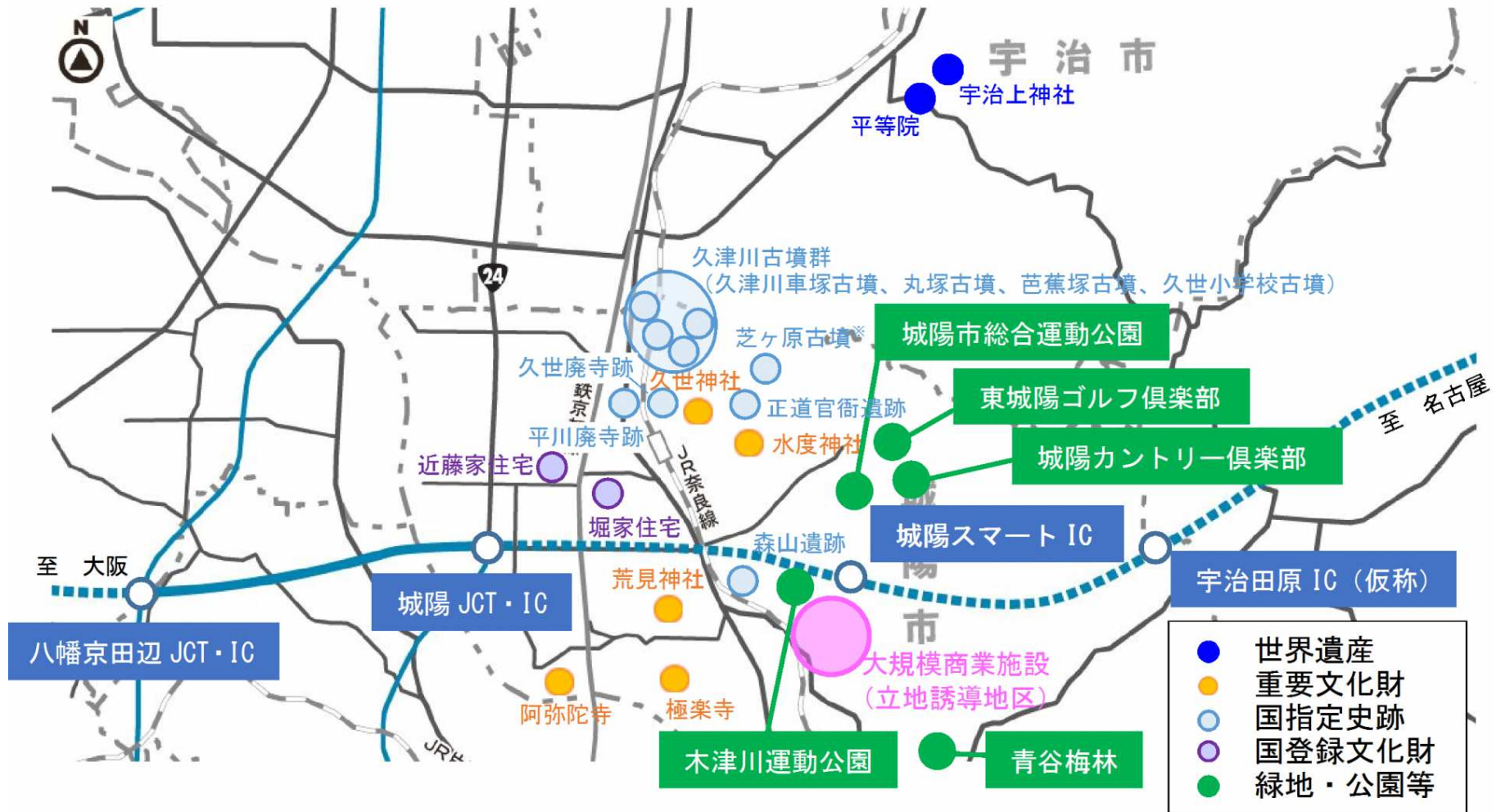


7. スマートICの設置により期待される整備効果(4/5)

④ 観光振興

- 史跡や文化財を有する社寺等の近隣観光施設や祭事・イベント会場への**アクセス性が向上し**、より広域からの集客が見込まれ、**城陽市内の観光施設への来訪者の増加**も期待できる。
- 世界遺産である平等院や宇治上神社などの魅力あふれる観光地と立地誘導中の大規模商業施設との相乗効果による**城陽スマートICを核とした観光ネットワークの形成**が期待。

■城陽スマートIC周辺の観光施設

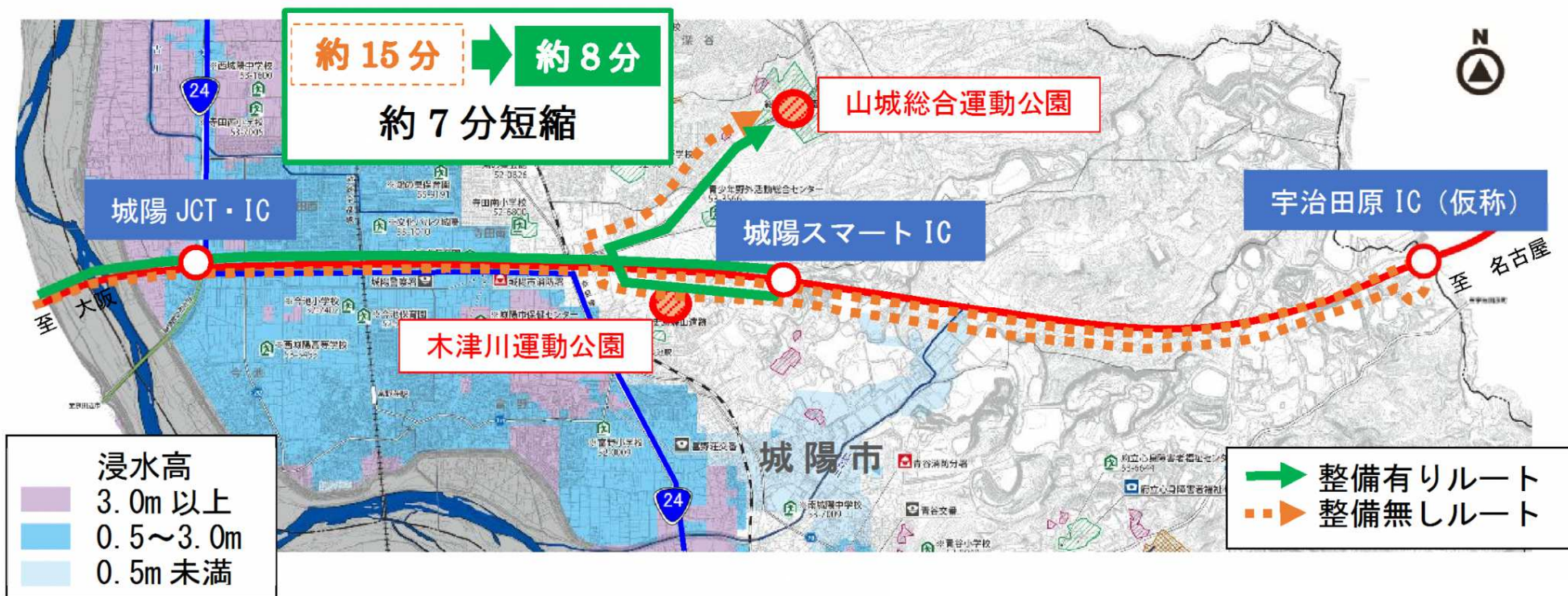


7. スマートICの設置により期待される整備効果(5/5)

⑤ 防災機能の向上

- 大阪方面から山城総合運動公園へのアクセス経路について、浸水想定区域を通過することなく最短で到達可能であり、**災害時の迅速な救援、復旧等の対応**が可能。
- 木津川運動公園と高速道路の出入口が直近となるため、高速道路のネットワークを生かした防災・復旧活動が可能となり、**防災機能が向上**。

■ 城陽市防災マップ(水害編・木津川の氾濫ケース)



8. 社会便益

○交通円滑化等：183億円

- ・走行時間短縮 152億円
- ・走行経費減少 24億円
- ・交通事故減少 7億円

※金額は上記便益について、開通年から50年間合計値を現在価値化したもの

○救急搬送時の定時性の確保

- ・城陽市南東部から第三次救急医療施設までのアクセス定時性の確保

○地域創生（企業立地促進）

- ・城陽市南東部から大阪方面へ約15分の時間短縮
- ・立地企業の輸送コストが減少、各地との取引が増加
- ・新規立地企業の誘致に貢献

○観光振興

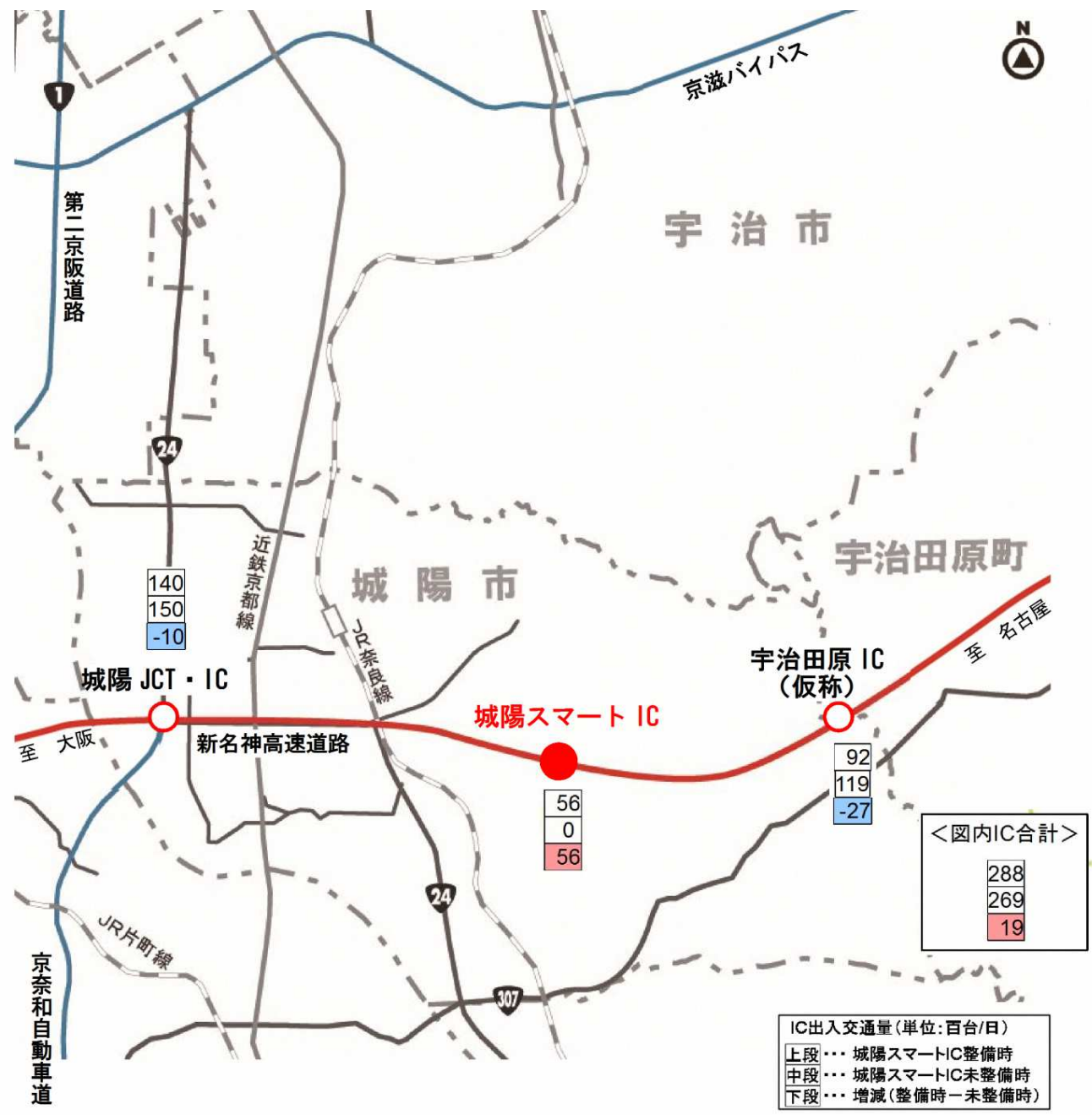
- ・周辺観光施設へのアクセス性向上

○防災機能の向上

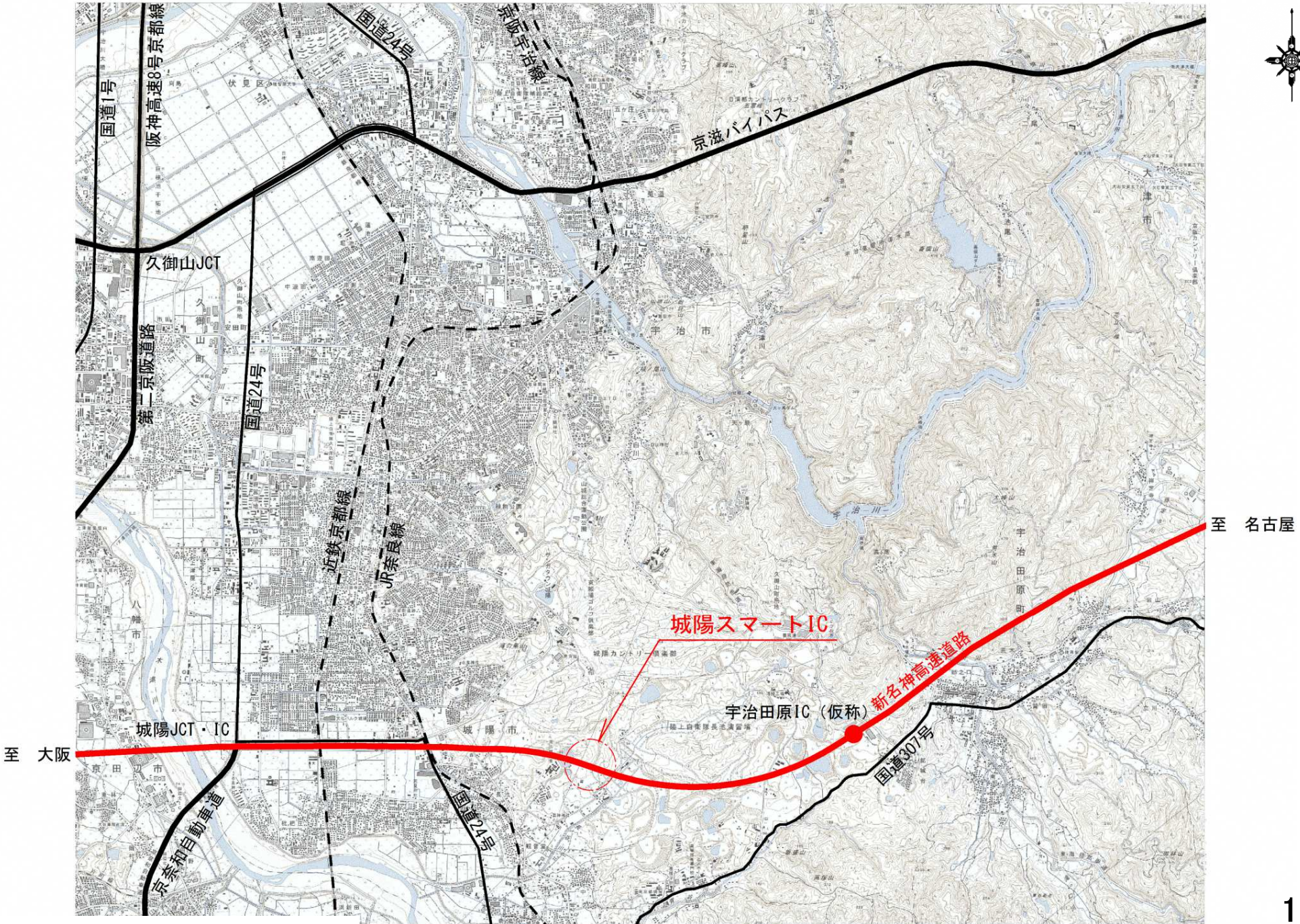
- ・救援・救助活動、復旧活動が迅速化

9. 整備前後におけるスマートICとその前後の既設ICにおける出入交通量

城陽スマートICの整備により、全体の交通量は増加するものと見込まれる。



10. 概略図面、その他必要な図面(位置図)



11. 概略図面、その他必要な図面(平面図)

